

## 1. プロジェクト概要

総事業費 167億円  
 募集目標額 1億円  
 募集期間 2015年12月28日～  
 資金使途 当センター基礎部門(研究所)と臨床部門(中央病院・東病院)の協働、企業およびアカデミアとの連携の拠点として新しく建設される研究関連施設の基盤整備。

### 〈新研究棟の建物概要〉

建設地 当センター敷地内(東京都中央区築地5-1-1)  
 敷地面積 9,944.66平方メートル  
 建築面積 2,700平方メートル  
 延床面積 33,500平方メートル  
 構造 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、免振構造  
 高さ 75メートル  
 階数 地上14階(オープンインベーションラボ/基盤的臨床開発研究コアセンター<sup>(\*)</sup>/実験フロア/大会議室等)  
 竣工予定 2017年3月  
※当センターで利用する生体試料、紐付けされた臨床情報や病理情報の整理が行われ、研究所内の創薬や新しい診断法の共同研究を行う施設に対して分配を行う



研究所ホームページ: 国立がん研究センター > 研究所

## 2. ご寄付への感謝

- 1) 当センター発行広報誌「日々歩」にご芳名掲載
- 2) 新研究棟内設置の銘板にご芳名掲示
- 3) 新研究棟にて開催の当センター主催セミナーにご招待  
(以上すべてご希望者のみ)

## 3. 寄付金控除

当センターへのご寄付には、特定公益増進法人への寄付として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。詳しくはホームページ(国立がん研究センター > ご寄付のお願い > 寄付控除等について)をご覧ください。

## 4. ご寄付の方法

### ① 書面によるお申し込み

#### 1. 現金の場合

センター内で別紙の寄付通知書(個人用と法人用があります)と合わせてお受けいたしますのでご連絡ください。  
 寄付担当 TEL:03-3547-5201(内線2359 2240)

#### 2. お振込の場合

お振込後、寄付通知書(個人用と法人用があります)を郵送、FAX、Eメールのいずれかの方法でお送りください。  
 Eメールでお送りいただく場合は別紙の寄付通知書の内容をメール本文にてお知らせください。

【お振込先】三菱東京UFJ銀行 うみかぜ支店 (普) 5515047  
 口座名義: 国立がん研究センター中央病院

ご入金確認後、確定申告に必要な領収証を送付します。ご通知がない場合は領収証を送付できませんのでご注意ください。

### ② WEBサイトによるお申し込み

クレジットカード決済、インターネットバンキング決済(ペイジー)にてご寄付いただけます。  
 国立がん研究センター > ご寄付のお願い > プロジェクト寄付 > Endeavor

がん研究センター Endeavor

検索



## 5. お問い合わせ先

国立がん研究センター 寄付担当(受付時間 平日9:00~17:00)

TEL:03-3547-5201(内線2359 2240) FAX:03-3542-2545 e-mail:ncckifu@ncc.go.jp

〒郵送:104-0045 東京都中央区築地5-1-1

# Endeavor 新研究棟建設整備事業

## 寄付募集のご案内

がんにならない、がんを負けない、がんと生きる社会  
 私たちとともにめざしてください  
 皆様のご支援が、より早く、より多くの人々を救います

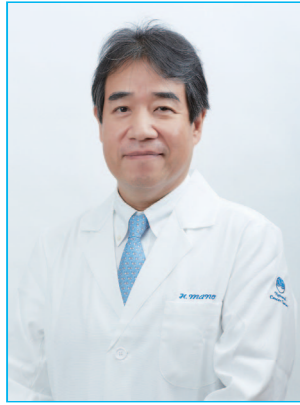


ゲノム情報に基づき個々の患者さんに最適化された医療  
 希少がん・難治がん等の医療における課題解決  
 これらの研究を協働・連携により加速

TEL.03-3547-5201(内線2359 2240)

がん研究センター Endeavor

検索



## Endeavor

### がん研究の新領域開拓とがん医療の革新 私たちと共にめざしませんか

国立がん研究センター研究所では、発がん原因の解明、革新的な治療法・バイオマーカーの創出を日本から実現するべく、日々がん研究に邁進しています。

平成29年4月に研究所が新研究棟へと移行することを受け、私たちは上記の流れを加速するべく新たにEndeavorプロジェクトを立ち上げました。これは研究所が国立がん研究センター中央病院・東病院と密接な連携を取り、さらには外部アカデミア・企業とも共同研究をすることにより、以下の3点の実現をめざすものです。

- 1) 基礎研究による新たな治療薬・バイオマーカーの開発
- 2) 多様ながん細胞株・がんモデル動物のシステムチックな開発と前臨床研究
- 3) ゲノム医療の実現

いずれも基礎研究が重要な役割を果たしますが、病院・他分野研究・企業との協力なくしては実現できないものばかりです。日本がこれら分野で諸外国に立ち後れている現状を打破すべく、私たちは「開かれた国立がん研究センター研究所」として、広く社会と協働して、上記目標の実現を目指してまいります。

オリジナリティの高いがん研究こそが明日のがん医療・予防法の基礎を創り出します。皆様方におかれましては、「日本から新しいがん医療を実現する」という私たちのEndeavorプロジェクトの趣旨にご賛同頂き、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立がん研究センター  
研究所長 間野 博行



### 新しい研究棟で がん克服の達成をめざして

近年の目覚ましい医療技術・治療法の進歩により、完治をめざせるがんも増えてきましたが、いまだ十分な予防法、早期診断法や治療法がないため、多くの方が不幸にも亡くなられています。国立がん研究センターでは、子供から高齢者までの個人にとってより効果的な予防法、診断技術や治療法の開発をめざして研究開発を行っております。私たちは、新しいがん研究領域を開拓し、世界に先駆けた新しい診断・治療法開発を行う目的で新しい研究棟を作りました。新しい研究棟では、患者さんの研究への協力に加え、他の医療機関や企業との協働のもとにがん克服の達成ができるように頑張りたいと思います。皆様の格別のご支援をよろしくお願い申し上げます。

国立がん研究センター  
副所長 落合 淳志

プロジェクトの取り組みを英語で表現すると次のようになります。文字の一部を引用し、私たちの思いをこめて

**Endeavor** (新規独自分野の試み、努力)としました。

Exploring a New Frontier in cancer research and developing an Innovation in Cancer Therapy with Patients, Social and Industry Leaders

## 研究プロジェクト

### がんを早期に発見する AMED 体液中マイクロRNA測定 技術基盤プロジェクト



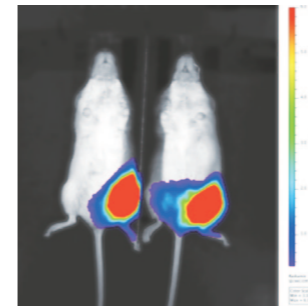
プロジェクトについては  
<http://www.microrna.jp>参照

がんを早期に発見できれば、がんによる死亡率を減少できます。これが、がん検診による最大のメリットのひとつです。受診率を上げるためには、集団検診などの一回のわずかな採血で複数のがんを早く検出できる簡便で安全な検査法の開発が必要です。そこで、**がんができると血液や尿中に現れるマイクロRNAという物質に注目し**、平成26年度から国の支援のもとに大型プロジェクトを開始しました。国立がん研究センターおよび国立長寿医療研究センターのバイオバンクをフル活用し、日本人の13種以上の主要ながん、および認知症における血液中マイクロRNAを同定することで、**がんと認知症の早期発見**を実現していきます。



開発責任者・落谷孝広先生を囲んで研究者のカンファレンス

### 日本発の新規治療薬開発プロジェクト



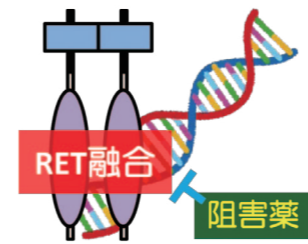
遺伝子組み換えマウスは治療標的分子の探索や治療薬の開発に重要です。写真はホタルの遺伝子を導入したがん細胞が光るマウス

がん治療成績の劇的な改善をめざして、独自の研究成果をもとに、**新しい治療薬の開発**を精力的に進めています。EZH1/2二重阻害剤は、がんの再発の原因であるがん幹細胞を標的とした新規治療薬で、**再発を抑制**することが期待され、今年臨床試験を開始しました。変異型IDH1阻害剤は、IDH1変異のあるがんに特異的に作用するため、**副作用がない**ことが期待されます。他にも多くの治療薬を開発中で、このような革新的な治療薬の開発により、がん治療を根本から改善することをめざしています。



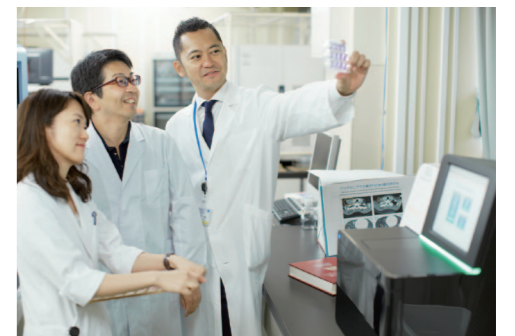
新しいがんの治療薬の開発を進めている北林一生先生(中央)

### 遺伝子の情報に基づく個別化がん治療法の開発



研究にはバイオバンクの試料が大きな力です

がん細胞に生じている遺伝子の異常は、抗がん剤治療の標的となります。私たちは肺がんで**RETがん遺伝子**の活性化異常を発見し、**RETタンパク質の阻害薬**を用いた治療法の臨床試験を進めています。また、私たちの遺伝子にはHLA型に代表されるような配列の個人差(遺伝子多型)が存在し、がんになりやすさや治療の効果に関係します。遺伝子研究の成果は、がん組織や正常組織のDNAを調べ診療の方針を決定する「**クリニカルシーケンス検査**」に活かしていきます。



遺伝子異常に基づくがん個別化治療を実現させるために尽力。中央が河野隆志先生